

# 各部会の審議状況

温暖化対策部会 ..... 1

水・土壌・大気部会 ..... 2

廃棄物部会 ..... 3

自然環境部会 ..... 4

琵琶湖総合保全部会 ..... 5

## 滋賀県環境審議会 各部会の審議状況について

部会名	温暖化対策部会
-----	---------

開催日	平成27年2月16日(月)【第2回】
主な議題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 県の事務事業における取組(環境にやさしい県庁率先行動計画)の実施状況</li> <li>2. 事業者行動計画書等の提出状況について</li> <li>3. 行程表の進捗把握について</li> </ol>
概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 滋賀県低炭素社会づくり推進計画に基づき、毎年度、推進計画に掲げる県の取組の実施状況を取りまとめ公表することとなっていることから、平成25年度の県機関における温室効果ガス排出量の実績値やエネルギー使用量等の取組状況について概要の報告を行った。</li> <li>2. 県内事業者の自主的な取組を促すため、事業活動を通じた低炭素社会づくりに寄与する取組について「事業者行動計画書」等の報告を求め、その内容を県が公表することとなっていることから、平成25年度の実績について報告を行った。</li> <li>3. 県が実施すべき地球温暖化対策のための取組を示した行程表に記載している各種取組等について、温室効果ガス排出量の公表データ等から進捗状況の把握を行った。</li> </ol>
今後の方向性	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 温室効果ガス排出量の削減に向け、特に排出量の約8割を占める電気使用量に対する取組として各施設の省エネ診断や節電の取組を引き続き実施していく。また、可燃ごみの排出量やPPC用紙購入量が増加傾向にあることから、各種取組の徹底や職員への意識啓発に一層努めていく。</li> <li>2. 事業所全体では、前年度と比較し、エネルギー使用量は減少したものの、電気の二酸化炭素排出係数が増加したこと等により温室効果ガス排出量が増加となった。今後も各事業者に対し、運用改善や設備導入対策の取組を呼びかけていく。</li> <li>3. 行程表の進捗把握に対して、いただいた意見等を踏まえ、今後必要となる低炭素社会づくりの対策を検討していく。具体的には、行程表や推進計画の検証を進め、適応策を含めた次期低炭素社会づくり推進計画の検討を進める。</li> </ol>

## 滋賀県環境審議会 各部会の審議状況について

部会名	水・土壌・大気部会
-----	-----------

開催日	平成27年3月19日(木)予定【第2回】
主な議題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平成27年度公共用水域・地下水水質測定計画について(審議)</li> <li>2. 平成26年度地下水水質測定結果について(報告)</li> <li>3. その他(情報提供) <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共用水域における本県の放射性物質モニタリング計画について</li> <li>・「琵琶湖における新たな水質管理のあり方懇話会」について</li> </ul> </li> </ol>
概要	<p>○来年度に測定する、県内の公共用水域(琵琶湖、河川)と地下水についての、測定地点や測定回数等を定めた「公共用水域・地下水水質測定計画」の内容について、審議を行う。</p> <p>○今年度実施した、地下水の水質測定結果について報告を行う。</p> <p>○本県が公共用水域において実施する次年度の放射性物質測定計画について報告を行う。</p> <p>○今年度環境省が実施した、琵琶湖および地下水の放射性物質測定結果について、参考として情報提供を行う。</p> <p>○今年度、琵琶湖での生態系の変化や有機物指標CODの指標性の問題を踏まえ、TOC等の新指標の導入や生態系保全に向けた今後の水質管理のあり方について議論するため設置した「琵琶湖における新たな水質管理のあり方懇話会」での検討事項と今後の方向性について報告を行う。</p>
今後の方向性	

## 滋賀県環境審議会 各部会の審議状況について

部会名	廃棄物部会
-----	-------

開催日	平成27年3月26日(木)予定【第1回】
主な議題	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 部会長の選出について</li><li>2. 第四次滋賀県廃棄物処理計画の策定について(諮問)</li><li>3. 第三次滋賀県廃棄物処理計画の進捗状況について(報告)</li><li>4. 旧アール・ディエンジニアリング最終処分場に係る特定支障除去等事業の進捗状況について(報告)</li></ol>
概要	<ol style="list-style-type: none"><li>2. 滋賀県廃棄物処理計画は第三次滋賀県廃棄物処理計画として平成23年度に策定し、平成28年度に5カ年計画の終期を迎えることから、来年度、第四次廃棄物処理計画を作成する必要がある、審議スケジュール等を諮問する。</li><li>3. 平成23年8月に策定した第三次計画について、策定後3年が経過したため、計画目標の達成に向けた取組等の報告を行う。</li><li>4. 平成26年2月に着工した第二次対策工事の進捗等について報告を行う。</li></ol>
今後の方向性	<ol style="list-style-type: none"><li>2. スケジュールに則り、第四次廃棄物処理計画の策定に向けた手続を進める。</li><li>3. 平成28年度の終期に向けて、計画目標の達成に向けた取組を行う。</li><li>4. 引き続き掘削、底面遮水の修復、廃棄物混ざり土の選別処理、水処理を進める。</li></ol>

## 滋賀県環境審議会 各部会の審議状況について

部会名	自然環境部会
-----	--------

開催日	平成27年2月23日(月)【第4回】
主な議題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第11次鳥獣保護管理事業計画の変更について(諮問)</li> <li>2. 滋賀県ツキノワグマ第一種特定鳥獣保護計画の策定について(諮問)</li> <li>3. 滋賀県ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画の策定について(諮問)</li> <li>4. 滋賀県ニホンザル第二種特定鳥獣管理計画の策定について(諮問)</li> <li>5. 滋賀県イノシシ第二種特定鳥獣管理計画の策定について(諮問)</li> <li>6. 滋賀県カワウ第二種特定鳥獣管理計画の策定について(諮問)</li> <li>7. 鈴鹿生態系維持回復事業計画の策定について(諮問)</li> </ol>
概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ~6.                      昨年、鳥獣保護法の一部改正が行われ、平成27年5月に施行されることから、県では第11次鳥獣保護管理事業の変更と併せて、新しく第一種特定鳥獣保護計画(ツキノワグマ)・第二種特定鳥獣管理計画(ニホンジカ、イノシシ、ニホンザル、カワウ)の策定を進めており、これら計画案について、ご審議いただきご承認いただいた。</li> <li>7.                      鈴鹿国定公園内においてシカの採食圧による貴重植物やササ原の衰退による生態系の影響に対応するため、植生保全対策、シカ防除対策を主とする事業計画案について、ご審議いただきご承認いただいた。</li> </ol>
今後の方向性	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ~6.                      審議結果を受け鳥獣保護管理事業計画の変更および特定計画の策定に向けた手続きを進める。</li> <li>7.                      生態系維持回復事業計画に基づき、各種対策を実施する。</li> </ol>

## 滋賀県環境審議会 各部会の審議状況について

部会名	琵琶湖総合保全部会
-----	-----------

開催日	平成27年1月26日(月)【第1回】
主な議題	<p>① マザーレイク21計画(第2期改定版)の推進状況について</p> <p>(1) 琵琶湖の現状および課題について</p> <p>(2) 第3回学術フォーラムの結果概要について</p> <p>(3) 第4回マザーレイクフォーラムびわコミ会議の結果概要について</p>
概要	<p>(1) 琵琶湖の現状と課題について、水質の状況、水草の大量繁茂の状況、オオバナミズキンバイへの対策、漁獲量の状況など、琵琶湖における各種課題や対策の状況について報告した。</p> <p>(2) 平成26年7月16日に開催した第3回学術フォーラムの概要や委員からの主な意見の内容について報告した。</p> <p>(3) 平成26年8月23日に開催した第4回マザーレイクフォーラムびわコミ会議について、会議の概要やみんなでまとめたコミットメントの内容等について報告した。</p>
今後の方向性	<p>部会では琵琶湖における外来水生生物の繁茂や水草の大量繁茂の問題、漁獲量の減少や水質との関係など、複雑に絡み合う琵琶湖の生態系に関する質疑が多く行われた。今後とも、専門家からの意見をいただく「学術フォーラム」や、県民やNPO等の一般の方の意見を聞く「びわコミ会議」の意見を参考にするとともに、「環境審議会琵琶湖総合保全部会」での意見を踏まえて県政への反映を図ってまいりたい。</p>